

# PRPJCT 06

## NiAS夢工房

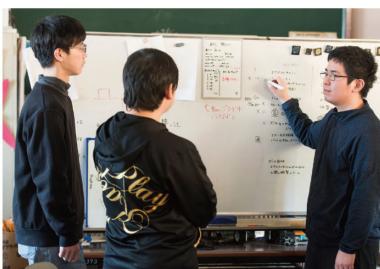
メンバーの技術力を  
結集し、ロボコン  
全国大会への進出を。



競技課題をクリアする2機のロボットを製作。



ロボット機体製作のための、部品加工の作業にあたる。あらかじめ作成してある製図をもとに、切り出した棒状のパーツの中心部に旋盤機で穴を開ける。



ロボコンの競技課題をクリアするために、「ボール投射」や「ラゴリ回収」についてどんな方法があるか、ミーティングで様々なアイデアを出し合う。

NiAS夢工房は、全国の大学が参加するロボットコンテスト「NHK学生ロボコン」への全国大会出場を目指し、オリジナルロボットを製作しています。ロボコン以外にも、県内小・中・高校の児童・生徒へロボット操縦の体験学習を行うほか、地域イベントにも参加しています。

ロボット製作では、競技の内容に合ったロボットのアイデアをチームで出し合い、設計から機体に用いる素材加工、組み立てや配線、ロボットを動かすためのプログラム制御など、すべてを自分たちで考えながらロボットを作り上げていきます。ロボット製作の過程ではロボットがなかなか思うように動かないことがあります。その原因を探りながら、改善していくかなければなりません。ですから、何度も改善を施してロボットが思うように動いたときは、大きな達成感を得ることができます。

2022年のロボコンの競技課題は、「ラゴリ」というインドの石積み競技をモチーフに設定されていて、シーカーとヒッターとに分かれた2チームで対戦。競技内容に関連する、「ボール投射用」と「ラゴリ積み上げ用」の2機のロボットを製作しました。残念ながら2次審査を合格できませんでしたが、来年度は、メンバーの技術力を結集して製作にあたり、2次審査をパスしてぜひとも全国大会へ進みたいと意気込んでいます。



leader

知能情報コース4年

香月 紫音

長崎県立川棚高等学校出身

高校時代の体験学習でプログラミングの面白さに触れ、大学でプログラム分野を深く学ぼうと本学へ。NiAS夢工房へは、その活動状況を大学のスタッフに聞いて参加した。「プロジェクトを通して身に付けた知識は、将来目指すエンジニアの仕事にも役立つはず」と話す。